

デザインの学校

（東京高等工芸学校と千葉大学工学部）

かつて松戸にデザインも学べるユニークな工学部があったことをご存じですか？千葉大学工学部はその前身を東京高等工芸学校に持ち、戦後間もなくから20年近く、松戸駅東口に近い相模台で多くのデザイナーを育てました。

この学校の誕生には洋画家、^{まつ おかひさし}松岡壽が深く関係しています。松岡壽はもともと、現在の東京工業大学の前身である東京高等工業学校の工業図案科で教えていました。工業図案科は、当時欧米に比べて劣っていた日本のデザインを改良するため、優れたデザイナーを育てることを目的にしていました。しかし、1914（大正3）年にこの学科は廃止されてしまいます。この決定に松岡らは猛反対しました。海外への輸出に耐えられる、洗練されたデザインをできる人材育成の重要性を強く訴えました。

こうした松岡らの運動と当時の好景気が後押しし、1921（大正10）年、東京・芝浦に本格的なデザイン教育機関である東京高等工芸学校が設立されました。教授陣は欧米留学の経験者が多く、学生は最新のデザイン教育を受けられる環境にいました。

東京高等工芸学校はその後東京工業専門学校に改称。1945（昭和20）年の東京大空襲による校舎焼失をきっかけに松戸の相模台にあった陸軍工兵学校校舎に移ります。

1946（昭和21）年、新制大学発足に際して工芸大学昇格運動がおこり、1949（昭和24）年、千葉大学工芸学部となりました。その後、1951年（昭和26）に工学部に改称。総合的なデザイン教育を目標とし、工学的な学科以外にも東京高等工芸学校時代から続く工業意匠学科（工芸図案科）、印刷、写真などといった他の大学にはない珍しい学科を設けました。



東京高等工芸学校正門 昭和初期 東京芝浦



学校校章

交差するハンマーは技術を、絵筆は芸術を表しています